

はじめに

公益社団法人プレストレストコンクリート工学会は、1958年にプレストレストコンクリート技術協会として設立されて以来、50年以上にわたって、プレストレストコンクリートおよびコンクリート構造に関する学術と技術の進歩、ならびに会員の資質の向上と国際的な情報交流を図り、社会の安全と発展に寄与してまいりました。その活動の一環として平成2年に開始された「プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム」も、この間、数多くの団体、企業のご支援を得て、継続・発展を遂げてまいりました。

さて、第24回目を迎える今回のシンポジウムは、北陸新幹線の開通により、さらなる発展が期待される富山市をその開催地とし、富山県民会館にて10月22日（木）と23日（金）の2日間にわたって実施する運びとなりました。

本シンポジウムでは、例年と同じく、特別講演会、学術講演会、技術展示会を開催いたします。特別講演会では、ノルウェーの Dr. techn. Olav Olsen AS 社の Tor Ole Olsen 博士に「Concrete for Marine Structures」と題する講演を、また、横浜国立大学先端科学高等研究院上席特別教授の藤野陽三様に、インフラマネジメントと内閣府戦略的創造プログラム（SIP）「インフラ維持管理更新マネジメント技術」プロジェクトと題する講演をお願いしています。

また、学術講演会では165件の研究発表が、技術展示会では37件の技術展示が行われます。特に、学術講演会では、講演数の増加ならびに参加者の便宜を考慮して、セッション会場を従来の4会場から5会場へと変更いたしました。さらに、シンポジウム前日の21日には、わが国最初のプレストレストコンクリート橋である「旧長生橋」の移設保存場所や、日本海側最大の斜張橋である新湊大橋をはじめとするさまざまな橋梁の視察を兼ねた現場見学会を企画しています。

2015年3月14日の北陸新幹線の長野－金沢間延伸開通により、関東圏から富山へのアクセスが格段に容易となりました。その建設に際しては、プレストレストコンクリート技術が大いに貢献したことは言うまでもありません。本シンポジウム初日の午前中に行われるワークショップでは、北陸新幹線開通に関連して、鉄道の歴史的PC橋に関する話題提供も行われる予定です。

プレストレストコンクリートに携わる技術者・研究者のみならず、多数の方々に本シンポジウムにご参加いただき、その知識・技術を共有いただければ幸いです。

最後になりますが、本シンポジウムの開催にあたり、ご支援を賜りました団体・企業および関係各位に対しまして厚く御礼申し上げます。

2015年10月22日

公益社団法人プレストレストコンクリート工学会
第24回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム実行委員会
委員長 井上 晋